

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<p><研究課題名></p> <p>抗ヒト IL4/13 受容体モノクローナル抗体製剤の効果予測因子同定と好酸球性副鼻腔炎の時間経過の検討に関する観察研究</p>
<p><研究機関・研究責任者名></p> <p>日本大学医学部附属板橋病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 (研究責任者)岸 博行</p>
<p><研究期間></p> <p>承認日 ~ 西暦 2025年 4月30日</p>
<p><研究の目的と意義></p> <p>好酸球性副鼻腔炎の患者さんは、鼻閉による鼻腔通気の低下や粘性の鼻汁出現を頻回に経験し、生活の質の低下に苦しむ人が多いです。現在、副鼻腔炎難治例の病態に重要な役割をもつ炎症を引き起こす原因物質として、IL-4とIL-13が知られています。炎症物質であるIL-4とIL-13の両者に結合することで炎症を抑えるヒト型抗ヒトIL-4/13受容体モノクローナル抗体製剤デュピルマブ(商品名;デュピクセント®)が発売されました。海外の研究において、デュピルマブの注射をした患者さんは鼻の症状の改善(鼻閉)、鼻にあるポリープのサイズが改善したと報告されました。本研究は、デュピルマブが有効な患者さんに共通して見られる特徴を探することを目的としています。この調査により得られた結果は、ほかの患者さんも含め、未来の治療法の確立に役立てる可能性があります。</p>
<p><利用する試料・情報の項目></p> <p>患者さん方の個人情報が表出することはありません。</p>
<p><対象となる患者さん></p> <p>承認日~西暦 2025年4月30日までに耳鼻咽喉・頭頸部外科を受診し、好酸球性副鼻腔炎の治療を開始した患者さん</p>
<p><お問い合わせ窓口></p> <p>日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町30-1) 耳鼻咽喉・頭頸部外科 氏名: 岸博行 電話:03-3972-8111 内線:(医局)2542 (PHS)</p>